

■「平成」におもう 副会長 高石 勝巳

「令和」の時代が始まりました。先月の新元号発表以来、「平成最後の〇〇」といったタイトルで、どこのテレビ局でも平成時代の思い出を探る番組が放映されてきました。私も、この機に「平成」を振り返ってみようと思います。多分に感覚的になりますが、平成時代のキーワードを次の三点に絞ってみました。即ち「平和」、「災い」、「縮む」です。



<平和> 私が組合活動を始めた当時は「欧州並みの賃金及び福祉社会の実現」を目指していましたが、福祉社会の前提は何としても「平和」である<即ち、平和は最大の福祉である>ことも学んできました。

平成の30年を含む戦後75年間は全国民の願いもあっていわば奇跡のような平和が実現でき、併せてそれなりの福祉社会も実現できましたが令和の時代はどうなるでしょう。

トランプ大統領による特異な米国一国主義と、中国の太平洋を狙った覇権の拡大主義とがますます強まる中、その狭間にある日本は今まで通りの努力と対応では現在の「平和」を維持していくのは相当に困難であろうと思われます。どうしますか。

<災い> 平成時代は東日本大震災など多くの自然災害が引き起こされました。これについては多言を要しないでしょうし、また次世代が安泰というものでもありません。

例えば当地・水戸について言えば、茨城沖を震源とする震度7以上の大地震が今後30年以内に発生する確率は80%、といったもので、ゾッとします。

<縮む> 平成23年より日本の総人口が減少に転じました。しかし最も深刻なのは15歳未満の子供人口が平成の30年間で<22百万人→15百万人>と7百万人(30%)も減ったことです。これにピンとこない人は最寄りの小学校で新入生の推移を聞いてみて下さい。愕然とするはずです。

人口の縮みと共に心配なのが経済の縮みです。バブルがはじけ、リーマンショックに揺れた平成は総じて「失われた30年」と言われ、エレクトロニクス産業に身を置いた我々には日本経済の低迷が良く実感できます。「ものづくり」も勿論大事ですがこれだけでは世界のリーディング産業を担えません。今後は高度な情報通信を駆使した新しい産業が世界経済を握るようです。いや、既に握っています。わが国も早くこの流れを捉えてほしいと思います。

内閣府の2018年の調査によると現在の生活に満足している国民は約75%、若年層では83%になるとのことですが、所得が増えない、格差が拡大しているなど矛盾も内包しています。これらの問題を改善していくためには、国を挙げての取り組みが不可欠です。

ところが最近、残念ながら国会議員の質が問われる状況が連続して起きています。夏の参議院選挙には私たちの仲間、**JAM組織内候補「田中ひさや」**さんが挑戦します。

新しい時代、令和で大きく飛躍させるため、皆様の強いご支援を宜しくお願いいたします。

■ トピックス:「令和」発表 田代 周(記)

4月1日に新元号が発表されました。予定されていた発表時刻が午前11時30分といわれて、テレビの前に釘付けになっていた方も多かったものと思います。(右写真はテレビ画面を撮ったもの)

菅官房長官の発表があった時刻はテレビの画面で11:41でした。すぐさまSNS上では一斉に意見の交換が行われたようで、5分もしないうちに様々な意見や感想がネット上に載りました。



ネットの拡散力のすごさを感じましたが、その一部をここに記載すると・・・、

真っ先に、元号不要論です。元号に対する思いはそれぞれありますが、そこには天皇制に対する考えが一因となっている場合もあるでしょう。しかし、改元発表に寄せる国民の関心や、街で号外に飛びつくようなフィーバー振りを見れば、心の中ではやはり元号は在って然るべきものと思っている人が多いことは間違いないでしょう。

続いて、聞き慣れない「令和」に対して「平成」のほうが良かった、という意見がありました。これは確かに、元号では初の「令」という文字やその音の響きに多くの人が一瞬違和感を感じたのかもしれませんが、しかし、これも短時間の内に新しい名前に染まってきたようでした。

西暦・元号併記の際にどちらを先に書くのか、新聞のA社・B社で発行日記載にこだわりがあるようだが、との話もありました。そんなことどちらでも良いではないかと私は思います。

年月の長さを考えるときには西暦で計算するでしょうし、特に明治以降の近代歴史の中でおきたいろいろな出来事は、元号を基準にして思い返すことが多いのではないのでしょうか。

引用された万葉集の句にある令月とは、辞書には「陰暦2月の異称」と書かれています。現代では3月頃となり、この季節を念頭に安倍首相は「大輪の花咲く日本を願っての新元号命名」と説明していたのでしょ。以前、NHKスペシャルでタイトル「縮小日本」が放映されました。令和時代には縮む日本からの方向転換が図られることに期待したいものです。

■ 事務局から

1) シニアクラブ活動報告 1月～4月の間に以下の行事が実施されました。

- ・ 2月13日(水) 本部主催、国立演芸場「国立演芸場鹿芝居観劇と新春交流会」
- ・ 3月19日(火) 茨城支部・寿会茨城県南共催「守谷駅周辺散策～名所・旧跡を見学」
- ・ 3月30日(土) 東京・千葉支部共催「江戸街中探索・四谷～東京」
- ・ 4月23日(火) 特別企画「新東京丸乗船と豊洲市場見学」

それぞれ、詳細はホームページに写真が載せられておりますのでご覧ください。

2) 今後の計画として、以下の企画を実施いたします。

- ・ 6月10日(月) 本部主催講演会「イキイキ・シニアライフ」本社ビル10階会議室
- ・ 7月10日(水) 本部主催「円覚寺座禅と写経・北鎌倉散策」
- ・ 7月23日(火) 本部・寿会東京支部カラオケ愛好会共催「カラオケ大会」
- ・ 8月22日(木) 特別企画「浅草国際ジャズフェスティバル」

これらの行事案内を1枚にまとめてこのシニアクラブ便りに同封しているのでご確認ください。

3) 7月の参議院選挙への「田中ひさや」支援のお願い

昨年末に一度お送りしていますが、また改めて応援カードを同封しました。既に返送されている方も含めて更なる皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

事務局長 田代 周

